

黎明の滝

黎明の滝は、菊池溪谷のビジターセンターから続く遊歩道の最初の滝で、おそらく溪谷で最も多く写真に撮られている場所である。滝の水は通常、滝の中央にある苔むした巨石の片側を越えるだけだが、雨の後など川の水位が上がったときに、この巨石の周囲にいくつかの小滝が形成される。落差は5m と比較的緩やかで、滝の水しぶきが夜明けの霧に似ていることから夜明けを意味する「黎明」と呼ばれるようになった。

滝の下は淵は穏やかで、歩いて滝の近くまで行くと水音が聞こえてくる。滝から遊歩道を登ると、1823年に大名が建築資材として植えた杉の木立がある。伐採されることなく残ったこの木は川の上に高くそびえ立ち、ムササビの生息地にもなっている。ムササビは鋭い爪で木に登り、樹皮を剥がしてしまうこともある。